

宮崎県立看護大学
自己点検・評価報告書
(平成24～25年度)

平成26年7月



MIYAZAKI PREFECTURAL NURSING UNIVERSITY

宮崎県立看護大学

はじめに

宮崎県立看護大学は、高齢化の進展、医療技術の高度化等を背景に、宮崎県における資質の高い看護職者の育成と確保を目的に、平成9年4月に開学した。

本学は、法人化していない看護学の単科大学であるが、学内評価委員会を設置し、大学独自で中期目標・中期計画を策定、教育・研究・地域貢献等の活性化等に取り組んでいる。この結果については、学外委員による外部評価で、漸次改善がみられるとの評価を受けている。

また、資質の高い看護職者の育成と確保については、卒業生の県内就職率50%以上という数値目標を設定し、資質の高い看護職者の確保をめざした取組を行っている。

学校教育法第83条は「大学は、学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させることを目的とする。その目的を実現するための教育研究を行い、その成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するものとする」とある。

このことを踏まえ、公立大学の教育・研究、地域貢献は、大学の特性を前提に、地域固有の課題に対応し、地域の活性化に貢献する使命を十分に反映した内容で展開することが求められている。

本学もまた、教育・研究の活性化並びに大学運営の効率化を図り、地域に根ざした県立大学として、地域との交流などを通じた地域貢献事業に積極的に取り組み、本県の看護の教育・研究、研修の中核機関として、県民の保健・医療・福祉の増進に寄与するものである。

本報告書は、本学が全学的に取り組んだ中期目標・中期計画をはじめ、教育・研究、地域貢献、大学の運営・管理等の詳細について、平成24～25年度の自己点検・自己評価を行い、その成果を世に問い今後の本学の在り方の検討資料として活用するものである。

報告書作成においては、教育・研究、地域貢献、大学の運営・管理等とご多忙の中、教職員諸氏のご協力をいただいた。記して感謝を申し上げたい。

平成26年7月

宮崎県立看護大学

学長 瀬口 チホ

目 次

はじめに

序章	1
宮崎県立看護大学の概要	1
1 設置理念・目的	1
2 沿革	1
3 学部・学科の入学定員等	1
4 施設の概要	1
第1章 学事と組織	2
第1節 教育目標	2
1 学部の教育目標	2
2 研究科の教育目標	2
第2節 大学組織	2
1 組織	2
2 教職員	4
3 学内の委員会	6
第3節 学生の状況	7
1 学部	7
2 研究科	8
3 学部及び研究科の休学・退学状況	9
4 卒業・修了後の進路状況	9
5 課題	9
第2章 年間の活動状況	12
第1節 学部・研究科の行事及び教授会活動	12
1 1年間の行事	12
2 教授会等の活動	13
第2節 学部の教育活動	15
1 カリキュラム	15
2 臨地実習	19
3 授業評価	24

第3節 研究科の教育活動	27
1 カリキュラム	27
2 修士論文題目一覧	29
3 授業実績	29
第4節 看護研究・研修センターの活動	32
1 概要	32
2 認定看護師教育課程	34
第3章 教員の研修・研究、社会活動	37
第1節 研修	37
1 国内研修	37
2 海外研修	37
3 職員の研修	37
第2節 F D活動（学部）	38
1 教務委員会	39
2 入試委員会	42
3 学生委員会	43
4 広報委員会	44
5 情報委員会	46
6 国際交流委員会	47
7 研究紀要委員会	48
8 就職対策委員会	49
9 附属図書館運営委員会	50
10 看護研究・研修センター運営委員会	51
第3節 F D活動（研究科）	52
第4節 研究活動	52
1 助成金による研究活動	52
2 研究活動及び業績	53
3 宮崎県立看護大学看護学研究会の概要と実績	54
第5節 社会・地域貢献活動	54
1 学会の研修会、講演会、学会等に関する活動	54
2 実施状況と成果、課題	65

第4章 社会貢献	66
第1節 公開講座	66
第5章 学内委員会等の活動	68
1 教務委員会	69
2 入試委員会	75
3 学生委員会	77
4 広報委員会	79
5 情報委員会	84
6 国際交流委員会	86
7 研究紀要委員会	87
8 就職対策委員会	88
9 附属図書館運営委員会	90
10 看護研究・研修センター運営委員会	91
11 感染症対策検討専門部会	93
第6章 学生生活及び学生への支援	94
第1節 学生支援活動	94
1 学年顧問による学修支援	94
2 教科別ガイダンス	95
3 新入生オリエンテーション	95
第2節 キャリア形成支援	97
1 入学前進路支援	97
2 就職ガイダンス	97
3 卒業生の実践を知る会	98
4 県内医療機関等合同就職説明会	98
第3節 保健厚生	102
1 概要	102
2 実績（成果）	102
第4節 修学資金等	104
1 修学資金	104
2 授業料の免除	104

第5節	サークル活動及び大学祭	105
1	サークル活動への支援	105
2	大学祭への支援	106
第6節	関係団体の活動	107
1	後援会	107
2	同窓会	108
第7章	国際交流の推進	110
第1節	概要	110
第2節	実績	110
第3節	課題	110
1	協定大学との交流のあり方	110
2	受入可能性の拡大	111
3	学生の短期海外研修プログラムの発展	111
4	グローバル化に関する今後の方向性	111
第8章	図書館	112
第1節	概要	112
第2節	管理・運営	112
第3節	関係団体への加盟	112
第4節	資料の整備	113
第5節	所蔵資料の内容	113
第6節	図書館の利用状況	114
1	閲覧・貸出	114
2	提供サービス	114
第7節	今後の課題	115
1	ITを活用した機能充実	115
2	図書館資料の充実	116
3	書架の整理・除籍等	116
4	レファレンス機能等の拡充	116
5	業務の管理システム	116

第9章 教育情報等の公表	117
第1節 概要	117
第2節 課題及び対策	117
第10章 情報システム整備と情報教育	118
第1節 情報環境整備の現状	118
第2節 コンピュータ関連教育の状況	118
第3節 看護技術教育に導入したCAI教育の現況	119
第4節 今後の課題	119
第11章 施設の利用状況	120
第1節 施設の概要	120
1 主要施設	120
2 関連施設	120
第2節 学外者に対する施設の開放とその利用状況	120
第12章 財政の状況	121
第1節 財政の概要	121
第2節 予算、決算の状況	121
第3節 外部資金の獲得状況	122
第4節 課題及び対策	123
第13章 危機管理	124
第1節 危機管理体制	124
1 危機管理員の設置	124
2 危機管理基本マニュアル	124
第2節 危機事象別の対策	125
1 災害対策	125
2 ハラスメント対策	125
3 感染症対策	125
第14章 点検・評価総括	127
第1節 学部	127
1 教育課程（カリキュラム）充実と学修支援	127

2 入学受け入れ状況と入試改革	128
3 教職員の能力開発（FD・SD）	129
4 キャリア教育及び就職支援	130
5 グローバル化の推進	130
6 教育情報の公表	131
7 外部資金獲得	131
第2節 研究科	132
1 教育活動	132
2 研究活動	132
3 入学受け入れ状況	132
第3節 看護研究・研修センター	133
1 地域貢献活動推進のための基盤整備	133
2 感染管理認定看護師教育課程開設の認可	133
3 県民の健康課題の解決や看護の質の向上を目指した地域貢献事業の推進	133
4 行政（自治体）・関係機関、看護実践現場などの連携の強化	133
卷末資料	135
(1)国内研修	136
(2)海外研修	141
(3)研修報告書	143
(4)業績一覧	145

序章 宮崎県立看護大学の概要

1 設置理念・目的

(1) 学部

生命の尊厳を基盤とした豊かな人間性を育成するとともに、深く高度な専門知識・技術を修得することによって、看護の果たすべき役割を追究し、社会の幅広い分野において、人々の健康と福祉の向上に貢献できる人材を育成するとともに、看護学及び関連する学問領域の発展に寄与することを教育の目的とする。

(2) 大学院

より良い看護をめざすために、看護学領域における基礎理論及びその応用理論について広い視野をもち、看護学の深まりとひろがり追究しつつ人々の健康支援に有効な活動を展開し得る人材を育成し、実践と研究を通じて看護学の発展に寄与することを目的とする。

2 沿革

平成 5 年 4 月	宮崎県立看護大学基本計画策定 設立準備室設置
平成 8 年 12 月	大学設置認可
平成 9 年 4 月	宮崎県立看護大学設立（看護学部看護学科）
平成 12 年 12 月	大学院（修士課程）設置認可
平成 13 年 4 月	大学院修士課程開設（看護学研究科看護学専攻）
平成 16 年 11 月	大学院課程変更（博士課程）認可
平成 17 年 4 月	大学院博士課程（後期）開設

3 学部・学科の入学定員等

	修業年限	入学定員	収容定員
看護学部看護学科	4 年	100人	400人
看護学研究科博士課程 前期 後期	2 年 3 年	12人 2 人	24人 6 人

4 施設の概要

(1) 所在地	宮崎市まなび野 3 - 5 - 1
(2) 敷地面積	81,664 m ²
(3) 施設延床面積	17,531 m ²

第1章 学事と組織

第1節 教育目標

1 学部の教育目標

- ① 人間に対する深い理解と倫理観を培い、人々の喜びや悲しみ、痛みや苦しみを分かちあえる豊かな感性と自己のもてる力を差し出せる温かい心を伸ばす。
- ② さまざまな健康状態の人々と関わることでできる基本的専門知識・技術を修得して個別な看護ニーズを見だし、科学的根拠に基づいて対応できる実践的問題解決能力を育む。
- ③ 人間を取り巻く自然、社会、文化関係を総合的な視野から思考できる能力と、社会情勢の変化や科学技術の発達に主体的・創造的に対応できる能力を育む。
- ④ 自己の専門職に対する誇りと責任感をもち、看護の果たすべき役割を追求し、医療・福祉等関連領域の人々と連携できる学際的調整能力を育む。

2 研究科の教育目標

本研究科は、地域に根ざした看護の開発を活性化しより良い看護をめざすために、看護学の深まりとひろがりを追及しつつ人々の健康支援に有用な活動を展開し得る看護専門職者の育成をめざしている。

博士前期課程では、複雑な看護現象を科学的に分析できる論理能力を修得することを通して、看護職固有の専門性を追及しつつ、人々の健康支援に有用な活動を展開し得る人材育成を目的とする。

博士後期課程では、看護専門職者を育成する教育者、自立した研究者にふさわしい研究能力の修得をめざす。すなわち、人々の健康問題の解決に必要性の高い領域において、自ら新たな課題を見出し、先行研究を探究し、実践に密着した研究計画を立ててフィールドを開発し、実証的に研究を進めていく人材の育成を目的とする。

第2節 大学組織

1 組織

(1) 運営組織

本学は、設置主体である宮崎県の出先機関の一つに位置づけられている。このため、予算は主管課（医療薬務課）において毎年議会の承認を得、その執行については県監査委員の監査を受ける。

こうした運営体制の中で、学長は大学全体の管理運営の責務を負っており、学長を補佐する機関として大学運営委員会があり、意志決定機関として、教授会、研究科会議がある。

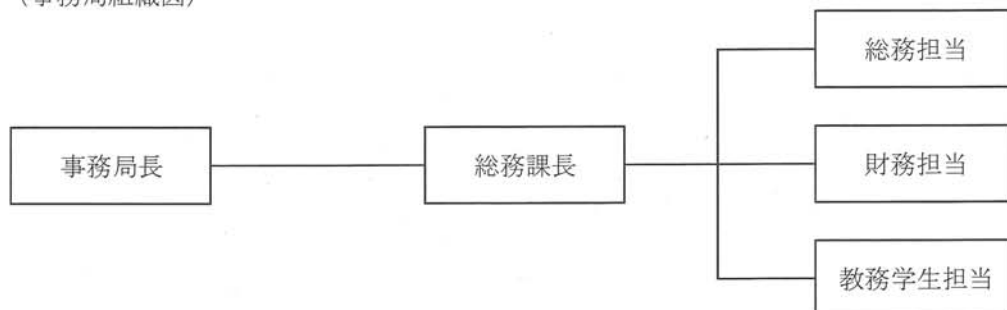
詳細な組織については次表のとおりである。



(2)事務局組織

事務局の体制は下表のとおりで、1課体制となっている。

(事務局組織図)



2 教職員

(1)学部

25年度					
区分	職 名	氏名	区分	職 名	氏名
普 遍 科 目	学 長	瀬口 チホ	専 門 科 目	准 教 授	三宅 玉恵
	学部長	栗原 保子		教 授	寺島 久美
	学生部長	花野 典子		准 教 授	沼口 文枝
	研究科長	山岸 仁美		講 師	邊木園 幸
	附属図書館長	串間 敦郎		講 師	山岡 深雪
	教 授	浅野 昌充		教 授	大名門 裕子
	准教授	小河 一敏		准教授	高尾 千賀子
	講 師	荒木 瑞夫		助 教	壹岐 さより
	准教授	川北 直子		助 教	甲斐 鈴恵
	准教授	エリック・ラーソン		助 教	勝野 絵梨奈
専 門 基 礎 科 目	准教授	大館 真晴		助 教	福浦 善友
	准教授	長坂 猛		助 教	毛利 千祥
	教 授	阿部 恵子		助 手	井上 理恵子
	教 授	江藤 敏治		助 手	蚊口 理恵
	教 授	島内 千恵子		助 手	川越 竜一
	教 授	菅野 幸子		助 手	黒木 瞳
専 門 科 目	教 授	布施 裕二		助 手	坂井 謙次
	准教授	中村 千穂子		助 手	武田 千穂
	教 授	新田 なつ子		助 手	谷口 敦子
	講 師	毛利 聖子		助 手	當瀬 聖子
	教 授	赤星 誠		助 手	長友 舞
	准教授	小笠原 広実		助 手	鍋倉 みき
	講 師	川村 道子		助 手	原村 幸代
	教 授	小野 美奈子		助 手	日高 真美子
	准教授	川原 瑞代		助 手	平山 登志子
	講 師	松本 憲子		助 手	福永 美紀
	教 授	菅沼 ひろ子		助 手	米良 伊代
	教 授	長鶴 美佐子		助 手	矢野 智子
	講 師	橋口 奈穂美		助 手	吉田 幸代

(2) 大学院

25年度					
区分	職 名	氏名	区分	職 名	氏名
基礎看護学	教 授	新田 なつ子	応用看護学	教 授	大名門 裕子
	教 授	山岸 仁美		准教授	三宅 玉恵
	教 授	栗原 保子		教 授	阿部 恵子
	教 授	島内 千恵子		教 授	長鶴 美佐子
応用看護学	准教授	小笠原 広実	共通科目	教 授	菅野 幸子
	教 授	小野 美奈子		教 授	布施 裕二
	准教授	中村 千穂子		教 授	浅野 昌充
	准教授	川原 瑞代		准教授	小河 一敏
	教 授	瀬口 チホ		准教授	川北 直子
	教 授	菅沼 ひろ子		教 授	串間 敦郎
	教 授	花野 典子		准教授	エリック・ラーソン
	教 授	赤星 誠		准教授	大館 真晴
	教 授	寺島 久美			

(3) 事務職員

25年度					
区分	職 名	氏名	区分	職 名	氏名
総務課	事務局長	勢井 史人	非常勤職員	教務学生担当	長井 亜紀
	総務課長	古場 昭良		総務担当	山角 久美子
	主 幹(総務)	大藤 精一郎		学部事務室	黒木 美佐
	主 査	尾曲 美智男		LL準備室	白坂 佳代
	主任主事	野津原 功		図書館	土持 あい
	主 事	中武 裕之		図書館	金丸 真由美
	主 幹(財務)	馬場 輝夫		図書館	小川 貴子
	主 査	有田 真由美		図書館	山口 洋子
	主任主事	濱砂 史郎		保健室	山本 恵子
	主任主事	田中 慶太郎		看護研究・研修センター	高山 真由美
	主 幹(教務学生)	工藤 るり子		看護研究・研修センター	児玉 智恵子
	主 査	高橋 賢二		看護研究・研修センター	杉田 加代子
	主 査	酒井 幸恵		看護研究・研修センター	黒木 久美
	主 査	廣渡 久美子			

3 学内の委員会

(1) 委員会の構成

平成25年度各委員会委員

委員会	委員氏名	職位	備考	委員会	委員氏名	職位	備考	
大学運営委員会	瀬口 千ホ	学長	委員長	入試委員会	串間 敦郎	教授	委員長	
	栗原 保子	教授	学部長		大館 真晴	准教授		
	花野 典子	教授	学生部長		江藤 敏治	教授		
	山岸 仁美	教授	研究科長		長鶴 美佐子	教授		
	串間 敦郎	教授	附属図書館長		寺島 久美	教授		
	寺島 久美	教授	教務委員長		三宅 玉恵	准教授		
	小野 美奈子	教授	看護研究・研修センター長		松本 憲子	講師		
	勢井 史人	事務局長	事務局		橋口 奈穂美	講師		
	古場 昭良	総務課長	事務局					
将来構想委員会	瀬口 千ホ	学長	委員長	学生委員会	新田 なつ子	教授	委員長・1年 学年顧問	
	栗原 保子	教授	学部長		毛利 聖子	講師	2年 学年顧問	
	花野 典子	教授	学生部長		山岡 深雪	講師	3年 学年顧問	
	山岸 仁美	教授	研究科長・研究紀要委員長		川原 瑞代	准教授	4年 学年顧問	
	串間 敦郎	教授	附属図書館長・入試委員長		荒木 瑞夫	講師		
	寺島 久美	教授	教務委員長		阿部 恵子	教授		
	新田 なつ子	教授	学生委員長		江藤 敏治	教授		
	長鶴 美佐子	教授	広報委員長		豊岐 さより	助教		
	菅野 幸子	教授	情報委員長		花野 典子	学生部長		
評価委員会	瀬口 千ホ	学長	委員長	広報委員会	長鶴 美佐子	教授	委員長	
	栗原 保子	教授	学部長		長坂 猛	准教授	情報委員会	
	花野 典子	教授	学生部長		大館 真晴	准教授	入試委員会	
	山岸 仁美	教授	研究科長・研究紀要委員長		荒木 瑞夫	講師	学生委員会	
	串間 敦郎	教授	附属図書館長・入試委員長		川原 瑞代	准教授	看護研究・研修センター運営委員会	
	寺島 久美	教授	教務委員長		川村 道子	講師	就職対策委員会	
	新田 なつ子	教授	学生委員長		毛利 千洋	助教		
	長鶴 美佐子	教授	広報委員長		勢井 史人	事務局長	事務局	
	菅野 幸子	教授	情報委員長		古場 昭良	総務課長	事務局	
危機管理対策委員会	瀬口 千ホ	学長	委員長	情報委員会	菅野 幸子	教授	委員長	
	栗原 保子	教授	学部長		長坂 猛	准教授		
	花野 典子	教授	学生部長		荒木 瑞夫	講師		
	山岸 仁美	教授	研究科長		中村 千穂子	准教授		
	串間 敦郎	教授	附属図書館長		毛利 聖子	講師		
	寺島 久美	教授	教務委員長		福浦 善友	助教		
	小野 美奈子	教授	看護研究・研修センター長		馬場 輝夫	主幹	事務局	
	勢井 史人	事務局長	事務局		尾曲 美智男	主査	事務局	
	古場 昭良	総務課長	事務局		中武 裕之	主事	事務局	
対策委員会	瀬口 千ホ	学長	委員長	国際交流委員会	川北 直子	准教授	委員長	
	栗原 保子	教授	学部長		小河 一敏	准教授		
	花野 典子	教授	学生部長		エリック・ラーソン	准教授		
	山岸 仁美	教授	研究科長		中村 千穂子	准教授		
	串間 敦郎	教授	附属図書館長		小笠原 広実	准教授		
	寺島 久美	教授	教務委員長		毛利 聖子	講師		
	小野 美奈子	教授	看護研究・研修センター長		勝野 絵梨奈	助教		
	勢井 史人	事務局長	事務局		山岸 仁美	教授	委員長	
	古場 昭良	総務課長	事務局		浅野 昌充	教授		
ハラスメント対策委員会	瀬口 千ホ	学長	委員長	研究紀要委員会	大館 真晴	准教授		
	栗原 保子	教授	学部長		菅野 幸子	教授		
	花野 典子	教授	学生部長		赤星 誠	教授		
	山岸 仁美	教授	研究科長		花野 典子	教授	委員長 学生部長	
	串間 敦郎	教授	附属図書館長		松本 憲子	講師	保健師	
	新田 なつ子	教授	学生委員長		菅沼 ひろ子	教授	助産師	
	小野 美奈子	教授	看護研究・研修センター長		川村 道子	講師	看護師	
	勢井 史人	事務局長	事務局		高尾 千賀子	准教授		
	古場 昭良	総務課長	事務局		沼口 文枝	准教授		
研究倫理委員会	浅野 昌充	教授	普通科目	就職対策委員会	勢井 史人	事務局長	事務局	
	島内 千恵子	教授	専門基礎科目		古場 昭良	総務課長	事務局	
	栗原 保子	教授	専門科目		串間 敦郎	教授	委員長 図書館長	
	大名門 裕子	教授	専門科目		小河 一敏	准教授		
	土肥 雅郎	理事	NPO宮崎福祉のまちづくり協議会		エリック・ラーソン	准教授		
	坂本 三智代	副主幹	医療業務課		中村 千穂子	准教授		
	勢井 史人	事務局長	事務局		赤星 誠	教授		
	寺島 久美	教授	委員長		新田 なつ子	教授		
	串間 敦郎	教授	普通科目部会長		山岡 深雪	講師		
教務委員会	川北 直子	准教授	普通科目	附属図書館運営委員会	勢井 史人	事務局長	事務局	
	島内 千恵子	教授	専門基礎科目部会長		小野 美奈子	教授	センター長	
	菅野 幸子	教授	専門基礎科目		大館 真晴	准教授	副センター長	
	菅沼 ひろ子	教授	専門科目		川北 直子	准教授		
	小野 美奈子	教授	専門科目		島内 千恵子	教授		
	山岸 仁美	教授	専門科目		川原 瑞代	准教授		
	小笠原 広実	准教授	専門科目		橋口 奈穂美	講師		
	三宅 玉恵	准教授	顧問		邊木 幸	講師		
	栗原 保子	学部長	顧問		甲斐 鈴恵	助教		
委員会	勢井 史人	事務局長	委員長	看護研究・研修センター運営委員会	勢井 史人	事務局長	事務局	
	栗原 保子	教授	学部長					
	山岸 仁美	教授	研究科長					
	串間 敦郎	教授	附属図書館長					
	寺島 久美	教授	教務委員長					
	小野 美奈子	教授	看護研究・研修センター長					
	勢井 史人	事務局長	事務局					
	古場 昭良	総務課長	事務局					
	瀬口 千ホ	学長	委員長					

(2) 研究科

本学には、研究科の委員会は設置されていないが、研究科会議を通じて研究科活動の内容を協議している（P14）。

第3節 学生の状況

1 学部

(1) 入学試験の状況

開学以来、入学定員は100名で、うち一般入試が70名、推薦入試が28名、社会人入試2名となっている。

志願者数は、入学定員に対して4倍以上の倍率で推移しているが、低倍率の翌年は高倍率となる傾向が続いている。

項目		平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
一般入試	志願者	434	660	585	370	666
	合格者	89	75	75	85	82
	入学者(A)	74	72	70	72	70
	入学定員(B)	70	70	70	70	70
	A/B	1.06	1.03	1.00	1.03	1.00
推薦入試	志願者	80	96	73	89	83
	合格者	29	31	30	29	30
	入学者(A)	29	31	30	29	30
	入学定員(B)	28	28	28	28	28
	A/B	1.04	1.11	1.07	1.04	1.07
社会人入試	志願者	9	6	1	12	6
	合格者	2	1	0	1	0
	入学者(A)	2	1	0	1	0
	入学定員(B)	2	2	2	2	2
	A/B	1.00	0.50	0.00	0.50	0.00
合計	志願者	523	762	659	471	755
	合格者	120	107	105	115	112
	入学者(A)	105	104	100	102	100
	入学定員(B)	100	100	100	100	100
	A/B	1.05	1.04	1.00	1.02	1.00

(2) 学年別学生数

在学生数は、定数をやや上回る数で推移しており、卒業延期生が増加する傾向にある。

男子学生の割合は、このところ15%前後で推移している。

平成25年5月1日現在

	総 数		県内 出身者	県外 出身者
	男	女		
1年生	100	15	85	51
2年生	102	13	89	65
3年生	100	13	87	45
4年生	108	18	90	61
卒業延期生	6	2	4	2
計	416	61	355	224

2 研究科

(1) 入学試験の状況

博士前期課程は、定員12名であるが、このところ定員割れの状態が続いている。

博士後期課程は、定員2名に対し、志願者がいなかった年もあり、総体では定員より少ない状態である。

項 目		平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
博士前期 看護学専攻	志願者	6	7	7	7	11
	合格者	5	6	7	7	9
	入学者(A)	5	5	7	7	9
	入学定員(B)	12	12	12	12	12
	A/B	0.42	0.42	0.58	0.58	0.75
博士後期 看護学専攻	志願者	3	2	0	0	2
	合格者	2	2	0	0	2
	入学者(A)	2	2	0	0	2
	入学定員(B)	2	2	2	2	2
	A/B	1.00	1.00	0.00	0.00	1.00
合 計	志願者	9	9	7	7	13
	合格者	7	8	7	7	11
	入学者(A)	7	7	7	7	11
	入学定員(B)	14	14	14	14	14
	A/B	0.50	0.50	0.50	0.50	0.79

(2) 課程別学生数

博士前期課程（2年間）
は各年度の定員割れにもかかわらず、総数は定員ちょうどになっているが、これは休学による卒業延期者が多いためである。

平成25年5月1日現在

大学院	総 数			県内 出身者	県外 出身者
		男	女		
博士前期課程	24	2	22	22	2
博士後期課程	5	2	3	3	2
計	29	4	25	25	4

3 学部及び研究科の休学・退学状況

学部、研究科とも、ほとんどが最終学年での退学、休学となっている。

学部・研究科の退学者数

		平成23年度					平成24年度					平成25年度				
		1年	2年	3年	4年	合計	1年	2年	3年	4年	合計	1年	2年	3年	4年	合計
学部					1	1				3	3		1		3	4
研究科	博士前期課程		1	—		1			—				1	—		1
	博士後期課程			1	—	1				—					—	
	小計		1	1	—	2				—			1		—	1
合計			1	1	1	3				3	3		2		3	5

学部・研究科の休学者数

		平成23年度					平成24年度					平成25年度				
		1年	2年	3年	4年	合計	1年	2年	3年	4年	合計	1年	2年	3年	4年	合計
学部			1	3	3	7	1		1	5	7		1	1	5	7
研究科	博士前期課程		4	—		4		3	—		3		6	—		6
	博士後期課程			1	—	1			2	—	2			3	—	3
	小計	0	4	1	—	5		3	2	—	5		6	3	—	9
合計		0	5	4	3	12	1	3	3	5	12		7	4	5	16

4 卒業・修了後の進路状況

学部の卒業生は、大半が就職で、進学その他は1割未満である。

卒業・修了後の進路状況

		平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	
学 部		就 職	95	96	98	90	98
		進 学	2	2	2	2	4
		その他	3	1	5	6	2
		小 計	100	99	105	98	104
研 究 科	博士前期 課 程	就 職	10	2	6	4	5
		進 学					
		その他		1			
	博士後期 課 程	就 職	1	4	1		
		進 学					
		その他	1	1			
	小 計		12	8	7	4	5
	合 計		112	107	112	102	109

5 課題

(1) 学部

大学全入時代を迎え、2018年度からは18歳人口が再び減少し始めるのに加え、看護系の大学や学部は開学当時と比較して大きく増加し、平成26年度においてもなお新設されている。看護系大学の増加により、本学が優秀な学生を確保するためには、あらゆる機会に本学をアピールしていくことが必要となってきた。

本学は、開学以来多くの志願者を集めており、平成20年度に策定した中期目標では、「志願者を入学定員の3倍以上に保つ。」としているが、平成25年度まではその目標を大きく上回っている。（図参照）

しかし、高倍率を保つだけでは、本学の求める学生が必ずしも入学することにはつながらない。そのため本学では、公立の看護系大学としてはいち早くアドミッション・ポリシー（入学者受入方針）を策定し、平成17年度からこのポリシーに基づいて、本学の入学試験（特別選抜及び一般選抜入試）において入学者を選抜している。

そこで今後本学において、優秀な学生の入学を確保するために次のようなことを検討し、実行していくことが必要である。

- ① 本学の特色や魅力をわかりやすく入学希望者に伝えるために、入試委員会と広報委員会が連携してオープンキャンパス及び進学説明会を実施し、進路相談会に参加、模擬講義の依頼に対し講師を派遣している。高校訪問の際には、相互に情報交換を行い高校側の要望をくみ取り、今後の取り組みの参考としている。

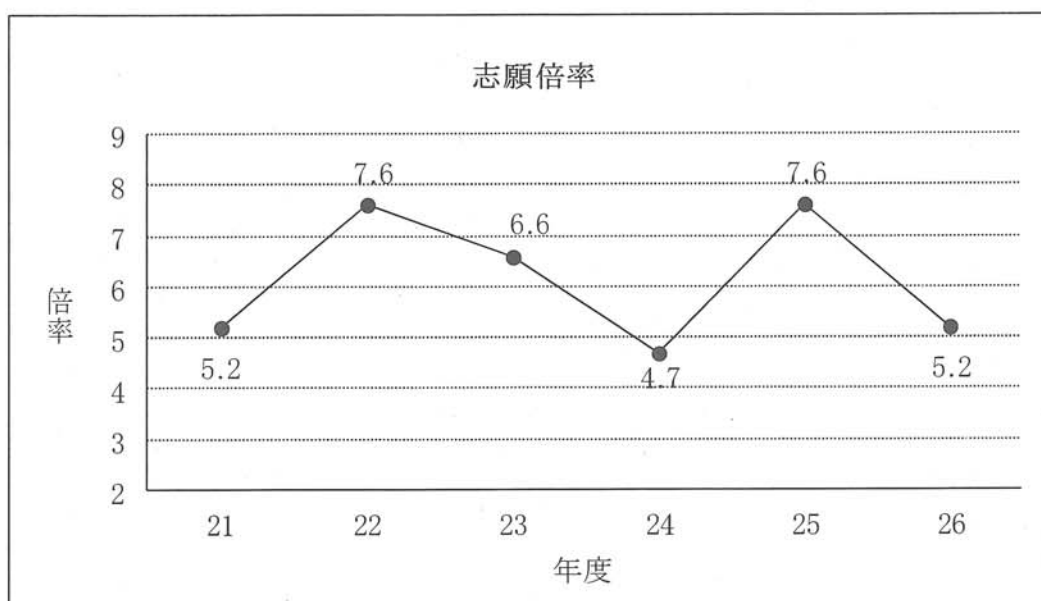
これらの事業を、教育・研究という本来の業務に従事する傍ら効果的に取り組むには、担当できる多くの教員が必要となるため、これまで行っている担当者の育成を継続的、計画的に進めていく必要がある。

- ② これまで入試方法・成績と入学後の成績との関連を統計的に探ったが、相関・有意差は各学年共にほとんど認められなかった。従って現在の入試方法で合格したものであれば誰でも、入学後成績上位となりうることを示しており、選抜方法として不具合はないと評価できた。

今後は、本学での学びと看護者としての資質が問われる、臨地実習Ⅱの成績と入試形態、評価方法との関連の具体的検討に資する、およその傾向が分かってきたことから、臨地実習の成績に関連が深い因子について、更に検討を進め入試方式・方法の改善を進めていく。

- ③ 本学の建学の目的の一つである県内の看護職者の育成と確保のために、推薦を受けた地域の看護職に就き「地域住民の健康を担い、将来リーダー的役割を果たすことができる優れた看護職者の育成と確保」を目指すことをねらいとする「地域推薦入試制度」を、平成28年度入試から実施する。本学の求める学生像に合致する受験生に多く受験してもらえよう、今後県内の市町村や高校へ周知を進めていく。

平成21年度から26年度入試までの本学全入試の平均志願倍率



(2) 研究科

前期課程においては、定員を下回っている状態が続いており、平成25年度より2次試験を実施し、定員には満たないものの9名の入学者を確保できた。また、後期課程においては、平成23年度、24年度は入学者がなかったが、25年度においては2名の入学者を確保できた。卒業生の入学者の割合が徐々に増えてきている段階ではあるが、今後志願者を拡大する広報活動の工夫が必要である。これまでは、各教員が実習や研修会等を通して、志願者確保につなげてきているが、それらのつながりを活かした働きかけを強化することや、在院生や修了生とのつながりをいかした働きかけを継続させていく必要がある。また、宮崎県立看護大学看護学研究会への卒業生の参加をよりいっそう呼びかけ、大学院進学への機会につなげていく。

入学者は、ほとんどが社会人入学であり、長期履修制度を活用する者も多いが、平成23年度には、退学者が2名であった。また、途中休学もあり、就労しながらの修学継続について、入学前の事前面談により、入学までの研究能力の基礎を高める学習等を含めた働きかけが必要である。

入学者の確保に加え、入学者の質の確保に向けて、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーについて内容の再検討を行った。また、入学試験においての合否判定規準の妥当性の評価・再検討を行った。さらに、教育内容の質の担保に向けて、複数指導体制の強化等の再検討を行い、平成25年度より新たな体制で進めてきている。カリキュラムについても検討を続けている。また、今後修了生のその後の活動状況等の調査を行い、教育内容の改善につなげていく予定である。

第2章 年間の活動状況

第1節 学部・研究科の行事及び教授会活動

1 1年間の行事

平成25年度

月 日	行 事 内 容
4月3日	入学式
	大学院ガイダンス
4月4日～6日	入学生・在学生オリエンテーション等
4月8日	前期授業開始
5月17日～20日	大学祭(公孫樹祭)
6月5日	開学記念日
6月3日～21日	臨地実習Ⅲ(4年次)
7月15日	オープンキャンパス
7月22日～26日	フィールド体験実習Ⅰ(1年次)
7月29日～8月9日	フィールド体験実習Ⅱ(2年次)
7月22日～11月15日	助産実習(4年次)
8月1日～9月20日	夏期休業
9月30日～2月21日	臨地実習Ⅱ(3年次)
9月30日	前期授業終了
10月1日	後期授業開始
11月23日	特別入試
12月9日～13日	助産実習(4年次)
12月25日～1月7日	冬期休業
1月14日～17日	助産業務管理実習(4年次)
1月18日～19日	大学入試センター試験
1月21日～2月7日	修士・博士論文審査及び最終試験
2月8日	修士論文発表会
2月16日	大学院前期課程入学者選抜試験
2月17日～3月7日	臨地実習Ⅰ(2年次)
2月25日	一般入試前期日程
3月7日	後期授業終了
3月12日	一般入試後期日程
3月14日	学位記授与式・修了式

2 教授会等の活動

平成25年度 教授会実績

回	開催日	協議事項
1	4月 1日(月)	・平成25年度各委員会委員(案)について
2	4月15日(月)	・宮崎県立看護大学の機関別リポジトリの構築整備について
3	5月20日(月)	・平成26年度入試合格発表日について ・平成26年度入学者選抜要項案について ・宮崎県立看護大学ハラスメント防止等規程(案)について ・職員の海外出張について
4	6月17日(月)	・平成26年度入学者選抜試験問題作成者について
5	7月16日(火)	・平成26年度入学者選抜試験全体日程(案)について ・平成26年度学生募集要項(特別入試、一般入試)について ・成績処理予定表 ・職員の海外出張について ・学生の退学・休学について
6	9月17日(火)	・面接試験の実施方法(案)について ・研究倫理委員会規程の一部改正について ・情報委員会規程等の一部改正について ・学生の休学について
7	10月21日(月)	・平成26年度入試監督者・面接・連絡等分担(案)について ・平成26年度特別入試実施・監督要領(案)について ・合否判定に係る大学運営委員会等の開催について
8	11月18日(月)	・平成26年度学年顧問(案)について ・平成25年度(後期)成績処理スケジュール(案)について
9	11月29日(金)	・平成26年度特別入試合否判定について
10	12月16日(月)	・平成26年度学年歴(案)について ・平成26年度大学入試センター試験実施要項(案)について ・平成27年度入学者選抜の実施方式・日程について ・宮崎県立看護大学リポジトリ運用規程(案)について ・学生の休学について
11	1月20日(月)	・平成26年度入学者選抜試験(一般入試)実施・監督要領(案)について ・カリキュラム・ポリシー(案)、ディプロマ・ポリシー(案)について ・教員の海外出張について ・学生の退学について
12	2月17日(月)	・平成25年度卒業判定について ・平成26年度教科別ガイダンスについて ・履修規程改正案、進級の判定及び臨地実習履修要件(内規)案について ・教員の海外出張について
13	3月 4日(火)	・平成26年度一般入試(前期日程)合否判定について
14	3月17日(月)	・宮崎県立看護大学看護研究・研修センター規程の改正(案)について ・教員の海外出張について ・学生の退学について
15	3月18日(火)	・平成26年度一般入試(後期日程)合否判定について

平成25年度 研究科会議実績

回	開催日	協 議 事 項
1	4月15日(月)	・平成26年度大学院学生募集要項について ・博士論文のインターネット利用による公表に向けて ・学生の休学について
2	5月20日(月)	・平成26年度博士(前期・後期)課程の概要について
3	6月17日(月)	・平成26年度大学院学生募集要項(案)について ・平成26年度入学者選抜試験問題作成者について ・宮崎大学との連携について
4	7月16日(火)	・博士論文のインターネット公表について
5	9月17日(火)	・平成26年度大学院入学者選抜試験実施要領(案)について ・学生の退学・休学について
6	10月21日(月)	・学生の休学について
7	11月18日(月)	・研究指導教員(後期課程)の要件について ・研究指導教員(後期課程)について ・博士後期課程の複数指導体制について ・博士後期課程1年次生副指導教員について
8	12月16日(月)	・平成26年度大学院前期課程入学者選抜試験(二次募集)実施要領(案)について ・平成26年度大学院後期課程入学者選抜試験実施要領(案)について ・アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーについて ・大学院合否判定規準(案)について ・修士論文審査規準(案)・博士論文審査規準(案)について
9	1月20日(月)	・平成26年度非常勤講師の選任について ・学生の休学について ・修士論文査読者について
10	2月17日(月)	・宮崎県立看護大学大学院学則の改正について ・宮崎県立看護大学学位規程の改正について ・宮崎県立看護大学大学院看護学研究科学位審査に関する細則について ・平成26年度学年歴(案)について ・長期履修学生の承認について ・修士論文修了判定について
11	2月24日(月)	・平成26年度大学院入学者選抜試験合否判定について
12	3月17日(月)	・平成26年度学生便覧(案)について ・平成26年度博士前期課程時間割表について ・平成26年度大学院ガイダンスについて

第2節 学部の教育活動

1 カリキュラム

(1) 授業科目一覧

普遍科目群

授 業 科 目 の 名 称		授業 形態	単位数		1 年 2 年 3 年 4 年								卒業必要単位		
			必修	選択	セメス ター										
					1	2	3	4	5	6	7	8			
自然界と看護	宇宙地球科学	講義		2	30									必修 3単位 選択科目から 4単位以上	
	生命科学論	講義		2	30										
	宮崎の自然Ⅰ	講義		1	15										
	宮崎の自然Ⅱ	講義		1		30									
	生体と環境	講義	2			30									
	統計学入門	講義	1				30								
	基礎自然科学	講義		1	30										
人間社会と看護	人間社会と規範	講義		2		30								必修 7単位 選択科目から 3単位以上	
	国家と法	講義	2		30										
	社会福祉と経済	講義	2				45								
	情報科学演習Ⅰ	演習	1		30										
	情報科学演習Ⅱ	演習		1				30							
	ライフスポーツⅠ	実技	1		30										
	健康スポーツ科学	演習	1			30									
	ライフスポーツⅡ	実技		1			30								
個の尊重と看護	ライフスポーツⅢ	実技		1		30		(30)		(30)				必修 4単位 外国語以外の 選択科目から 3単位以上 4単位以上 同一言語の科目を 2単位以上	
	精神科学	講義		2		30									
	人権論	講義		2	30										
	人間関係論	講義		1	15										
	英語Ⅰ	演習	1		30										
	英語Ⅱ	演習	1			30									
	英語Ⅲ	演習	1				30								
	英語Ⅳ	演習	1					30							
	応用英語Ⅰ	演習		1					30						
	応用英語Ⅱ	演習		1							30				
	英語講読Ⅰ(E.R.)	講義	2		30										
	英語講読Ⅰ(C.R.)	講義	2					30							
	英語講読Ⅱ	講義	2									30			
	英語表現法	講義	2										30		
	英語海外研修	講義	2	30		(30)		(30)		(30)					
	韓国語Ⅰ	演習	1	30											
	韓国語Ⅱ	演習	1		30										
	中国語Ⅰ	演習	1	30											
	中国語Ⅱ	演習	1		30										
	ドイツ語Ⅰ	演習	1	30											
	ドイツ語Ⅱ	演習	1		30										
	フランス語入門Ⅰ	放送大学	演習	2		15	(15)	(15)	(15)	(15)	(15)	(15)			
	フランス語入門Ⅱ		演習	2		15	(15)	(15)	(15)	(15)	(15)	(15)			
	スペイン語入門Ⅰ		演習	2		15	(15)	(15)	(15)	(15)	(15)	(15)			
	スペイン語入門Ⅱ		演習	2		15	(15)	(15)	(15)	(15)	(15)	(15)			

普遍科目群 (つづき)

文化と看護	学問論	講義		1	15						選択科目から 7単位以上
	生活と科学演習	演習		1	30						
	日本語表現法Ⅰ	講義		1	30						
	日本語表現法Ⅱ	講義		1	30						
	日本の文学と日本人の心	講義		1	30						
	現代の思想	講義		1			30				
	宮崎の文化	講義		1	15						
	音楽論	講義		2	30						
	指導論	講義		2				30			
	比較文化概論	講義		2				30			
	人間研究演習Ⅰ	演習		1	30						
人間研究演習Ⅱ	演習		1	30							

專門基礎科目群

授 業 科 目 の 名 称		授業 形態	単位数		1 年		2 年		3 年		4 年		卒業必要単位
					セメスター								
			必修	選択	1	2	3	4	5	6	7	8	
学看護 総人論	看護疾病論Ⅰ	講義	1		30								必修 38単位 専門基礎科目・専門 科目の選択科目中 ※印の科目から 2単位以上、◎印の 科目から1単位以上、 その他の選択科目 から3単位以上
	看護疾病論Ⅱ	講義	1			30							
	看護疾病論Ⅲ	講義	2				45						
	看護疾病論Ⅳ	講義	1					30					
看護 人間学Ⅰ	人間常態学Ⅰ－１（構造と機能）('09)	講義	1		30								
	人間常態学Ⅰ－２（構造と機能）('09)	講義	1			30							
	人間常態学Ⅰ－３（構造と機能）('09)	講義	2								60		
	人間常態学Ⅱ－１（代謝と栄養）	講義	1				30						
	人間常態学Ⅱ－２（代謝と栄養）	講義	1					30					
	人間常態学Ⅲ（生体と薬物）	講義	2					45					
	人間常態学Ⅳ（応用）	演習		※1							30		
	人間常態学実習	実験	1					45					
	人間病態学Ⅰ（生体と変化）	講義	2				30						
	人間病態学Ⅱ－１（感染と免疫）	講義	1			30							
	人間病態学Ⅱ－２（感染と免疫）	講義	1				30						
	人間病態学Ⅲ（応用）	演習		※1								30	
	人間病態学実習	実験	1				30						
	疾病論・治療論Ⅰ（'09）	講義	1								30		
看護 人間学Ⅱ	人間発達学	講義	1		15								
	精神発達学	講義	1		30								
	精神病理学	講義	2				30						
	精神保健学	講義	2					30					
	疾病論・治療論Ⅱ－１	講義	1				30						
	疾病論・治療論Ⅱ－２	講義	2					30					
看護 人間学Ⅲ	保健学Ⅰ	講義	2				30						
	保健学Ⅱ	講義	2								30		
	健康行政・法規	講義	2			30							
	看護ネットワーク論	講義	1								15		
	医療経営論	講義		2								30	
	医療・看護情報	講義	1								15		
	医の歴史と倫理	講義	1			30							
国際看護論	講義		2								30		

専門科目群

授 業 科 目 の 名 称		授業 形態	単位数		1 年 2 年 3 年 4 年								卒業必要単位		
			必修	選択	セ メ ス タ ー										
					1	2	3	4	5	6	7	8			
基礎看護学Ⅰ	看護学原論Ⅰ	講義	2		30									必修 54単位 専門基礎科目・専門科目の選択科目中 ※印の科目から2単位以上、◎印の科目から1単位以上、その他の選択科目から3単位以上	
	看護学原論Ⅱ	演習	1			30									
	看護方法Ⅰ－1	学内実習	1		45										
	看護方法Ⅰ－2	学内実習	1			45									
	看護方法Ⅱ－1	学内実習	1				45								
	看護方法Ⅱ－2	学内実習	1					45							
看護方法Ⅲ	演習	1						30							
基礎看護学Ⅱ	感染看護学	講義	1					15							
	災害看護学	講義		1								15			
	死生看護学	講義		1									15		
	看護学原論演習	演習		※1								30			
	看護技術研究演習	演習		※1									30		
※1	精神看護方法	学内実習	1						45						
	精神看護論演習	演習		※1									30		
地域看護学	地域看護論Ⅰ	講義	1			30									
	地域看護論Ⅱ	講義	2				60								
	地域看護論Ⅲ	講義	1					30							
	地域看護方法	演習	2						60						
	地域看護論演習	演習		※1								30			
	広域看護論Ⅰ	講義		2								30			
	広域看護論Ⅱ	講義		2								30			
	広域看護論Ⅲ	講義		2									30		
	広域看護方法	演習		2								60			
	継続訪問実習	臨地実習		1									45		
※2	地域看護管理実習	臨地実習		1									45		
	家族看護論Ⅰ	講義	2			45									
	家族看護論Ⅱ	講義	1									30			
家族看護学Ⅰ	家族看護方法Ⅰ－1 (生命の連続性を支える看護)	学内実習	1							45					
	家族看護論演習 (生命の連続性を支える看護)	演習		※1									30		
	家族看護方法Ⅰ－2 (子どもを健やかに育む看護)	学内実習	1							45					
	家族看護論演習 (子どもを健やかに育む看護)	演習		※1								30			
	基礎助産論Ⅰ	講義		1								15			
	基礎助産論Ⅱ	講義		1								15			
	実践助産論Ⅰ	講義		2								30			
	実践助産論Ⅱ	演習		2								60			
	実践助産論Ⅲ	講義		1								15			
	助産業務管理	講義		2									30		
	分娩実習	臨地実習		7									315		
	継続事例実習	臨地実習		1								45			
	助産業務管理実習	臨地実習		1									45		
	家族看護学Ⅱ	成人看護方法Ⅰ	講義	1					30						
		成人看護方法Ⅱ	学内実習	2							60				
家族看護論演習(成人)		演習		※1									30		
※3	老人看護方法	学内実習	1							45					
	家族看護論演習(老人)	演習		※1									30		

※1 精神看護学

※2 家族看護学総論

※3 家族看護学Ⅲ

専門科目群（つづき）

体験・統合科目	フィールド体験実習Ⅰ	臨地実習	1	45								
	フィールド体験実習Ⅱ	臨地実習	1		45							
	臨地実習Ⅰ	臨地実習	1			45						
	臨地実習Ⅱ（精神）	臨地実習	3					135				
	臨地実習Ⅱ（地域）	臨地実習	2					90				
	臨地実習Ⅱ（在宅）	臨地実習	2					90				
	臨地実習Ⅱ（母性）	臨地実習	3					135				
	臨地実習Ⅱ（小児）	臨地実習	3					135				
	臨地実習Ⅱ（成人）	臨地実習	3					135				
	臨地実習Ⅱ（老人）	臨地実習	2					90				
	臨地実習Ⅲ	臨地実習	3						135			
	自由課題演習	演習	1				30	(30)				
	看護管理	講義	◎1								15	
	看護教育	講義	◎1								15	
	看護技術スキルアップ演習	演習	1								30	
	看護研究Ⅰ	講義	1				15					
	看護研究Ⅱ	演習	1					30				
	卒業研究	演習	3								←90→	
計		135単位以上 (保健師課程 145単位以上) (助産師課程 153単位以上)										

(2) 非常勤講師 (25 年度)

	氏名	担当科目	現職
学部	村田 治彦	国家と法	宮崎産業経営大学法学部 准教授
	小川 和憲	社会福祉と経済	宮崎大学教育文化学部 元教授
		医療経営論	
	大羽 武	ドイツ語Ⅰ	宮崎大学 名誉教授
		ドイツ語Ⅱ	
	韓 壽燕(ハン スヨン)	韓国語Ⅰ	宮崎公立大学 非常勤講師
		韓国語Ⅱ	宮崎大学 非常勤講師
	関 黎明(カン レイメイ)	中国語Ⅰ	宮崎公立大学 非常勤講師
		中国語Ⅱ	宮崎大学 非常勤講師
	片岡 寛章	人間病態学Ⅰ	宮崎大学医学部 教授
	浦崎 芙美子	災害看護学	宮崎県立看護大学 元講師
	品田 龍吉	ライフスポーツⅠ	宮崎大学教育文化学部 元教授
	田所 則子	健康スポーツ科学	エアロビクス フリーインストラクター
		ライフスポーツⅡ	
	山下 恵子	音楽論	宮崎学園短期大学 学長補佐兼教授
	伊藤 一彦	日本の文学と 日本人の心	宮崎県立看護大学 客員教授
		宮崎の文化	
		現代の思想	
	流田 勝夫	宮崎の自然Ⅰ	宮崎大学教育文化学部 元教授
	有森 和彦	人間常態学Ⅲ	宮崎大学医学部 教授

2 臨地実習

看護学実習は、講義・演習・学内実習で修得してきた知識や看護技術を用いて、直接患者に看護を実践し、看護への理解を深める授業科目であり、統合科目として位置づけられている。

看護学実習は、専門教育の導入としてのフィールド体験実習と、専門教育の講義・演習の後、または並行して導入される臨地実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲから構成されている。

(1) 実習計画

講義での学びを実践で体験しながら進められるように、1年次の前期(1セメスター)から、フィールド実習がスタートするように計画されている。平成25年度に実施した、1年次から4年次までの年間計画はP21に示した。

① フィールド体験実習

フィールド体験実習Ⅰは、さまざまな健康状態の人が、どのような場でどのような生活をしているのかを、自らの五感を働かせて観察し、自己の内面から突き上げてくる感情や思考及び行動について学生間での共有を促す学習を通して、自己のもてる力と今後の学習の方向性を自らつかむための実習としている。フィールドにて3日間実習を行い、そこで得た体験をカードに記述し、グループで共有する作業を1日、全体発表を1日というスケジュールで進めている。

フィールド体験実習Ⅱは、平成24年度までは大学周辺地域の一斉全戸訪問を通して、地域の特性とその中で暮らす人々の姿を浮き彫りにしながら、地域看護における継続的な視点を学習するための実習を行ってきた。これは、保健師課程の実習として位置づけられていたが、保健師課程を選択制としたことから、看護師課程の在宅看護論を強化する必要性が出てきた。そこで、平成25年度からは、高齢者が生活している多様な生活の場に出向く実習を通して、高齢者の思いや生活の様子を把握し、高齢者理解を深めるとともに、生活の場の特性と必要な支援を考える実習とした。それに伴い、新たな実習施設を開拓し、平成25年度には、2グループに分かれて1週間ずつの実習を行った。

② 臨地実習

臨地実習Ⅰは、学生が初めて患者を受け持ち、必要な看護を計画・実施・評価している。2年次の最後の時期に、3グループに分かれて、各1週間の実習を行なっている。

臨地実習Ⅱは、3年次の後期に、各領域3週間ずつの実習を行なっている。各領域における看護の特性を理解し、対象に応じた看護を実践する能力と態度を養うための実習と位置づけ、看護職者としての能力の発展を目的としている。精神・地域、母性・小児、成人・老人の領域の組み合わせで、各クール6週間をローテーションして3クールの実習を行う。

1クール：立場の変換をして、必要な看護を提供できる

2クール：対象特性をつかみ、必要な看護を提供できる

3クール：対象のよりよい状態を描き、あらゆる資源を活用して看護を提供できるを重点目標として実習を進め、看護実践能力がレベルアップできることをねらっている。

臨地実習Ⅱの到達目標を検討した結果、地域看護学領域において、在宅看護論の強化を図る必要性が見えてきた。そこで、これまで保健所、市町村、訪問看護ステーションで3週間行っていたが、訪問看護ステーションでの実習を独立させて臨地実習Ⅱ（在宅）として2週間の実習を行うことになった。それに伴い、クールの組み合わせを変更し、老人・地域・在宅を2週間ずつで1クール、成人・精神1クール、母性・小児1クールと変更した。これは、平成24年入学生（平成26年度に実施）から組み入れることが決定され、平成24年度入学生からはこの方法が学生に伝えられている。

臨地実習Ⅲは、4年次にそれまでの学びを総合し、チームの中で実践的能力を高めるための実習と位置づけ、学生が自主的に領域を選択し、自己の学習課題に応じて主体的に行なう実習である。

助産実習は、助産課程を選択した学生が実施するもので、実施時期と期間については表の中に示した。

（2）実習施設

平成24年度までは、県内・県外の施設を幅広く使用してきたが、県外実習は、学生の経済的負担が大きいこと、臨地実習Ⅲでは教員が付き添わないことから、遠方であると現場との調整が限定されること、県内施設への関心を高めてほしいことなどの理由から、平成25年度からは県内施設を利用することになった。平成25年度の実習別の利用施設一覧を以下に示す。

平成25年度 看護学実習年間計画

年次	1・3・5・7セメスター						2・4・6・8セメスター					
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年次				フィールド体験実習Ⅰ 1週間	夏季休業				冬季休業			
2年次				フィールド体験実習Ⅱ 1週間	夏季休業				冬季休業		臨地実習Ⅰ 1週間	
				フィールド体験実習Ⅱ 1週間							臨地実習Ⅰ 1週間	
											臨地実習Ⅰ 1週間	
3年次					夏季休業		臨地実習Ⅱ 1領域3週間 精神 地域 母性 小児 成人 老人		冬季休業	臨地実習Ⅱ 1領域3週間 精神 地域 母性 小児 成人 老人		
4年次		臨地実習Ⅲ 3週間			夏季休業				冬季休業			
				助産実習 1週間		助産実習 3週間	助産実習 7週間			助産業務管理実習 1週間		

実習別の利用施設一覧表

※平成 25 年度実施

実習科目名	担当領域	実習病院・施設	
フィールド体験実習Ⅰ		カリタスの園 乳児院 つぼみの寮 宮崎市総合発達支援センター おおぞら デイサービス発達センター つくし園 くども保育園 ソレイユ保育園 県立宮崎病院 宮崎東病院 障害者支援施設 翼 障害者支援施設 宮崎リハビリテーションセンター 小規模通所授産施設 アートステーションどんこや	知的障害者総合福祉施設 向陽の里 NPO法人ほとくり会 ほとくり作業所 精神障害者小規模作業所 はぐるま工房 指定障害福祉サービス事業所 はにわの会 仲間の家 高宮病院 介護老人福祉施設 皇寿園デイサービスセンター 介護老人保健施設 ことぶき苑 ケアハウス ケアトピアみやざき ケアトピアデイサービスセンター
フィールド体験実習Ⅱ		社会福祉法人芳生会 特別養護老人ホーム 芳生苑 ケアハウス 芳生ヴィラ 小規模多機能型居宅介護 芳生あやめ館 グループホーム サンめいと 芳生苑デイサービスセンター 社会福祉法人信愛会 特別養護老人ホーム 裕生園 グループホーム たちばな 介護付有料老人ホーム アルテンハイムグジブランド 介護老人保健施設 信愛ホーム 社会福祉法人 慶明会 特別養護老人ホーム さくら苑 小規模多機能型居宅介護施設さくらんぼ 住宅型有料老人ホーム さくらの里 デイサービスセンター さくら苑	一般社団法人弘潤会 グループホーム ほのぼの小松 グループホーム ほのぼの天満 小規模多機能ホーム ゆらり小松 小規模多機能ホーム ゆらり芳士 小規模多機能ホーム ゆらり青葉 社会福祉法人広和会 特別養護老人ホーム ふじ野園 グループホーム ほのぼの青葉
臨地実習Ⅰ	基礎看護学	県立宮崎病院 社会保険宮崎江南病院	
臨地実習Ⅱ	成人・老人看護学	県立宮崎県病院 潤和会記念病院	
	小児看護学	県立宮崎病院 県立こども療育センター あゆみ保育園 木花保育園	ソレイユ保育園 橘保育園 くども保育園 ちどり保育園
	母性看護学	県立宮崎病院 古賀総合病院 宮日母子福祉事業団	
	精神看護学	井上病院 若草病院 宮崎県精神保健福祉センター	
	地域看護学	宮崎市保健所管内 都城保健所管内 小林保健所管内 中央保健所管内 延岡保健所管内 高鍋保健所管内 ※ 管内の保健所・市町・訪問看護ステーションを含む。	

実習科目名	担当領域	実習病院・施設	
臨地実習Ⅲ		県立宮崎病院 県立延岡病院 県立日南病院 宮崎東病院 えびの共立病院 古賀総合病院 社会保険宮崎江南病院 県立こども療育センター 橘保育園 わかすぎ保育園 潤和会記念病院 迫田病院 井上病院 高宮病院	いしかわ内科医院 宮崎生協病院 宮崎市郡医師会病院 都城市郡医師会病院 市民の森病院 宮崎善仁会病院 平和台病院 市町村他 訪問看護ステーションひかり 訪問看護ステーションケアふる 諸塚村役場・美郷町役場・美郷町国保病院 西米良村役場・五ヶ瀬町役場 国富町役場・木城町役場 川南町役場・三股町役場 高千穂町役場
助産実習(選択科目) ※助産業務管理実習を含む	助産学	県立宮崎病院 古賀総合病院 えびの共立病院 上田助産院 池田助産院 ほのか助産院 みまた助産院	

3 授業評価

本学では開学当初より、授業の公開、教員同士による相互評価、チーム・ミーティングによる授業評価、教員個々による学生からの授業評価を日常的に実施し、授業の改善、教育力の向上に努めてきた。平成 19 年度より学内ウェブを用いた学生による授業評価アンケートを開始し、各教員の授業実績報告と合わせて、その内容を教務委員会で把握すると共に学内ウェブで全教員に公開し、各教員が授業改善に役立てる取組を継続してきている。

(1) 教員による評価（授業実績報告）

① 対象科目：全科目

② 実施時期：前期セメスター 9 月～10 月、後期セメスター 2 月～3 月 成績報告とほぼ同時期に実施

③ 実施方法：3 段階評価及び自由記述による調査

授業実績報告様式ファイルを全教員にメールで送り回答を求めた。

評価項目は、授業内容・到達目標、他分野との関連、学生の到達度、学生の主体的参加と自己評価、その他の重点項目、である。

④ 結果

平成 24 年度、25 年度とも 90%以上の科目で回答があった（臨地実習、卒業研究は除く）。項目ごとでは、「到達目標に向けた教材や内容等の改善や工夫」は 88～96%で実施されていた。「普遍・専門基礎・専門それぞれの分野のつながりを意識して授業に盛り込む工夫」は 83～89%の科目で実施され、「授業を通した学生の到達度評価」は 92～99%で実施、「学生の主体的参加・自己評価への取組」は 89～97%で実施されていた。

教員への結果報告については、1) 各項目の単純集計、2) 自由記述の項目ごとの記載について、教務委員会（4 月、11 月）で内容を点検後、全教員が閲覧できるように学内ウェブに掲載し共有化を図った。

<課題>

講義・実習等の授業形態の違いや、学生の授業評価アンケート項目との関連における評価項目の検討と、学生の授業評価アンケート結果をふまえた授業の自己点検・評価システムの策定についての検討が課題である。

教員による授業実績報告集計結果の概要（全体）

a. 行った b. とくに行っていない c. その他

平成 24 年度前期

	1. 教材について		2. 他分野との関連		3. 学生の到達度 評価		4. 主体的参加の 工夫	
選択肢	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
a	57	87.7	54	83.1	60	92.3	58	89.2
b	4	6.2	6	9.2	3	4.6	5	7.7
c	4	6.2	5	7.7	2	3.1	2	3.1
未回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
科目数合計	65	100.0	65	100.0	65	100.0	65	100.0

平成 24 年度後期

	1. 教材について		2. 他分野との関連		3. 学生の到達度 評価		4. 主体的参加の 工夫	
選択肢	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
a	46	95.8	42	87.5	46	95.8	45	93.8
b	1	2.1	4	8.3	2	4.2	3	6.3
c	1	2.1	2	4.2	0	0.0	0	0.0
未回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
科目数合計	48	100.0	48	100.0	48	100.0	48	100.0

平成 25 年度前期

	1. 教材について		2. 他分野との関連		3. 学生の到達度 評価		4. 主体的参加の 工夫	
選択肢	度数	全体%	度数	%	度数	%	度数	%
a	61	93.8	58	89.2	64	98.5	63	96.9
b	2	3.1	5	7.7	0	0.0	1	1.5
c	2	3.1	2	3.1	1	1.5	1	1.5
未回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
科目数合計	65	100.0	65	100.0	65	100.0	65	100.0

平成 25 年度後期

	1. 教材について		2. 他分野との関連		3. 学生の到達度 評価		4. 主体的参加の 工夫	
選択肢	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
a	55	94.8	51	87.9	56	96.6	52	89.7
b	2	3.4	4	6.9	2	3.4	5	8.6
c	1	1.7	3	5.2	0	0.0	1	1.7
未回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
科目数合	58	100.0	58	100.0	58	100.0	58	100.0

(2) 学生による授業評価

- ① 対象科目：全科目
- ② 実施時期：前半セメスター6月～9月、後半セメスター12月～3月
- ③ 実施方法：5段階評価及び自由記述による調査（無記名方式）。

全学生にウェブ入力による授業評価アンケートへの協力を口頭と掲示で周知し、学内HPに入力フォームを掲載し、学生が任意に入力を行った。

なお、平成25年9月、教務委員会で低回答率の改善について協議を行い、情報処理室等の端末からの入力の利便性が主たる原因と考えられ、学生への周知を強化すると共に、試行的に入力時間の設定、紙面での回答などを実施した。

評価項目は、学生自身の授業への取組姿勢、学習目標の明示、シラバスの活用、課題や自習などの適切性、授業方法の工夫、教員の熱意、新たな知識（技能）等の獲得、授業への満足度、授業への要望等の項目である。

④ 結果

平成24年度は、延べ回答数1,923、回答率は平均19%であった。平成24年度の授業への満足度の平均は、5ポイントのうち4.6ポイントであった。

平成25年度は、延べ回答数3,893、回答率は平均40%であった。平成25年度の授業への満足度の平均は、5ポイントのうち4.6ポイントであった。

教員への結果報告については、1)各項目の単純集計とグラフ、2)自由記述の項目ごとの記述について、教務委員会（4月、11月）で内容を点検後、全教員が閲覧できるように学内ウェブに掲載し周知した。

また、結果の活用については、結果を授業にどのように反映するかは教員による任意とした。

<課題>

学生の回答率はやや改善したがまだ十分とは言えない。低回答率ではあるが、学生の授業への満足度では概ね満足を得られている。今後は、学生へのフィードバックシステムを検討すると共に、より効果的なアンケート方法を検討し回答率を上げること、アンケート結果の集計と分析を行ない、個々の教員のさらなる授業改善と大学全体の教育の質の向上に向けて積極的に活用していくことが課題である。

学生による授業評価アンケート集計結果（授業への満足度）

		満 足 5 ポイ ント	や や 満 足 4 ポイ ント	どち ら とも 言 え な い 3 ポイ ント	や や 不満足 2 ポイ ント	不満足 1 ポイ ント	合 計	ポ ン 平 イ ト 均
平成24年度 前 期	度 数	939	425	75	10	0	1,449	4.58
	ポイント	4,695	1,700	225	20	0	6,640	
平成24年度 前 期	度 数	298	123	51	2	0	474	4.58
	ポイント	1,490	492	153	4	0	2,139	
平成25年度 前 期	度 数	1,098	397	106	19	8	1,628	4.57
	ポイント	5,490	1,588	318	38	8	7,442	
平成25年度 後 期	度 数	1,453	644	150	12	6	2,265	4.56
	ポイント	7,265	2,576	450	24	6	10,321	

第3節 研究科の教育活動

1 カリキュラム

(1) 授業科目一覧

博士前期課程授業科目（平成25年度入学生）

授 業 科 目 名		配当年次	単 位 数		備 考
			必 修	選 択	
基礎看護学分野	理論看護学特論	1		2	(履修方法) ① 主専攻領域を選び、主専攻分野の授業科目の4単位、演習4単位を必修とする。 ② 他の授業科目から12単位を選択する。 ③ 特別研究10単位を主専攻領域で行う。 (修了要件) 30単位以上を修得した上で、修士論文を提出し、審査及び最終試験に合格すること。
	理論看護学演習	1		2	
	看護技術学特論	1		2	
	看護技術学演習	1		2	
	看護学教育方法論特論	1		2	
	看護学教育方法論演習	1		2	
	感染看護学特論	1		2	
	感染看護学演習1	1		2	
	感染看護学演習2	1		2	
	基礎看護学特別研究	2		10	
応用看護学分野	精神自律支援論特論	1		2	
	精神自律支援論演習	1		2	
	精神回復促進ケア論特論	1		2	
	精神回復促進ケア論演習	1		2	
	地域看護学特論	1		2	
	地域看護学演習Ⅰ	1		2	
	地域看護学演習Ⅱ	1		2	
	女性の健康支援論特論	1		2	
	女性の健康支援論演習	1		2	
	生命の連続性支援論特論	1		2	
	生命の連続性支援論演習	1		2	
	育児期ケア論特論	1		2	
	育児期ケア論演習	1		2	
	臨床看護論特論	1		2	
	臨床看護論演習	1		2	
	患者・家族自助支援論特論	1		2	
	患者・家族自助支援論演習	1		2	
	応用看護学特別研究	2		10	
共通科目	看護学研究方法論	1		2	
	看護管理学特論	1		2	
	栄養科学特論	1		2	
	栄養科学研究法	1		2	
	児童・思春期精神科学	1		2	
	地域精神保健科学	1		2	
	自然科学史	1		2	
	自然科学特論	1		2	
	生命科学特論	1		2	
	応用統計学・情報学特論	1		2	
	生活環境特論	1		2	
	宇宙地球科学特論	1		2	
	健康運動学特論	1		2	
	学問論特論	1		2	
	英語特別演習	1		2	
	文化と人間	1		2	
	表現と受容	1		2	

博士後期課程授業科目(平成25年度入学生)

授 業 科 目 名		配当年度	単 位 数		備 考
			必 修	選 択	
基礎看護学教育研究領域	理論看護学特論	1		2	(履修方法) ① 主専攻領域を選び、主専攻領域の選択科目2単位を必修とする。 ② 特別研究8単位を主専攻領域で行う。 (修了要件)
	看護技術学特論	1		2	
	看護学教育方法開発論	1		2	
	感染看護学特論	1		2	
	基礎看護学特別研究(理論看護学)	1～3		8	
	基礎看護学特別研究(看護技術学)	1～3		8	
	基礎看護学特別研究(看護学教育方法開発論)	1～3		8	
	基礎看護学特別研究(感染看護学)	1～3		8	
応用看護学教育研究領域	精神自律支援方法開発論	1		2	10単位以上を取得した上で博士論文を提出し、審査及び最終試験に合格すること。
	地域ケアシステム開発論	1		2	
	女性の健康支援方法開発論	1		2	
	生命の連続性支援開発論	1		2	
	育児支援プログラム開発論	1		2	
	治療期看護ケア開発論	1		2	
	患者・家族の自助支援方法開発論	1		2	
	応用看護学特別研究(精神自律支援方法開発論)	1～3		8	
	応用看護学特別研究(地域ケアシステム開発論)	1～3		8	
	応用看護学特別研究(女性の健康支援方法開発論)	1～3		8	
	応用看護学特別研究(生命の連続性支援開発論)	1～3		8	
	応用看護学特別研究(育児支援プログラム開発論)	1～3		8	
	応用看護学特別研究(治療期看護ケア開発論)	1～3		8	
	応用看護学特別研究(患者・家族の自助支援方法開発論)	1～3		8	
共通科目	生命科学研究方法論	1		2	
	社会科学研究方法論	1		2	
	精神科学研究方法論	1		2	

(2)非常勤講師

氏名	担当科目	現職
相山 委都子	学問論特論	ダイトーケミックス株式会社 保健師
	社会科学研究方法論	
伊藤 一彦	文化と人間	宮崎県立看護大学 客員教授
	表現と受容	

2 修士論文題目一覧

平成24年度

研究領域	氏 名	論 文 題 目	学位授与年月
基礎看護学 (看護学生涯学習論)	前田 慶太	患者が主体的に治療過程を歩めるように支える看護 - 認識が定まらない状況の患者への看護過程を分析して -	平成25年3月
応用看護学 (精神自律支援論)	松脇 百合子	地域での生活に不安感を訴える精神障害者の認識が、前向きに変化する時の看護の視点 - 精神科訪問看護における不安神経症患者との関わりを通して -	平成25年3月
基礎看護学 (理論看護学)	坂井 謙次	実習中に指導過程を自己評価するための指針 - 基礎看護実習の振り返りにおける指導より -	平成25年3月
基礎看護学 (理論看護学)	日高 真美子	患者と関わりながらより個別に迫る手段を選択していく看護者の判断過程	平成25年3月

平成25年度

研究領域	氏 名	論 文 題 目	学位授与年月
応用看護学 (女性の健康支援論)	森岡 弓恵	母乳育児をしている母親の自律を促す助産師の関わり ～ 普段と異なる子どもの反応を読み取る為に～	平成26年3月
応用看護学 (思春期ケア論)	長津 恵	思春期女性の「月経に対する認識と月経の経験」の様相とその変容プロセス ー 月経ヘルスケアプログラムの参加者への縦断的インタビューからー	平成26年3月
応用看護学 (育児期ケア論)	田代 郁代	小児病棟における短期入院の患児・家族への個別性をふまえた看護実践上の指針 ～ 自己の看護実践の分析を通して～	平成26年3月
応用看護学 (育児期ケア論)	松岡 聡美	NICUに入院する心臓病のこどもと母親をつなぐ看護実践上の指針	平成26年3月
応用看護学 (慢性看護論)	大木 郁美	頭頸部がん患者の退院後の生活の組み立て直しへの支援における看護実践上の指針	平成26年3月

3 授業実績

本研究科では、科目の受講人数は、最大12名、平均3～4名であり、少人数授業を実施している。授業の目的に照らして、講義や演習に、討議型授業やプレゼンテーションを多く組み込み、多様なメディアも活用している。さらに実験、実習なども組み入れている。ほぼ全員が社会人入学のため、夜間や土曜日、集中講義等参加しやすい時間割を工夫して開講されている。平成23年度より、各教員の授業評価報告を実施している。その内容について、概要については共有しているが、授業改善に役立てられるよう、具体的な内容につ

いて学内ウェブで公開の準備中である。

(1) 教員による評価（授業実績報告）

- ① 対象科目：全科目
- ② 実施時期：前期セメスター10月、後期セメスター3月
- ③ 実施方法：授業評価ファイルを全教員にメールで送り回答を求めた。
- ④ 評価項目：教育内容・教育方法・教育の成果・その他重点項目について
- ⑤ 結果：平成24年度、25年度ともほとんどの科目で回答があった。

〔教育内容について〕は、9割が教育目的を達成するための基礎となる研究活動の成果を反映した内容が展開されていた。院生の臨床経験の多様性や学習段階によって、教員の研究成果を十分に反映出来ない科目も一部見受けられた。〔教育方法について〕は、教育目的に照らして、9割が授業形態や学習指導上の工夫が行われていた。〔教育成果について〕は、8割が到達目標に達していると評価されていたが、2割については、不十分な点について授業終了後のフォローアップ等により、個々院生の学習段階に応じ指導がなされていた。

<課題>

少人数のゼミ形式の利点を活かし、院生個々のレジネスに応じた教育内容及び方法を工夫した授業が展開されているが、院生の研究能力の基礎となる論理能力に個人差が大きく、入学までの準備学習等も含めて、検討課題である。また、今後は院生の授業評価アンケート結果を踏まえた授業の自己点検、評価方法を検討していく。

(2) 学生による授業評価

平成26年度、実施予定である。

教員による授業実績報告集計結果の概要（全体）

1. 【教育内容について】授業内容が、教育の目的を達成するための基礎となる研究活動の成果を反映したものとなっていますか。
a. なっている b. なっていない c. 改善が必要であった
2. 【教育方法について】教育目的に照らして、授業形態や学習指導上の工夫を行いましたか。
a. 工夫をした b. とくにしていない c. どちらともいえない
3. 【教育の成果について】院生の教育目標到達状況について、討議内容・レポートの状況から判断して教育の成果があがっていますか。
a. あがっている b. 充分と言えない

平成 24 年度(前期課程)

	1. 教育内容について		2. 教育方法について		3. 教育成果について	
選択肢	度数	%	度数	%	度数	%
a	31	91.2	30	88.2	28	82.4
b	3	8.8	2	5.9	6	17.6
c	0	0	2	5.9	0	0
科目数合計	34	100.0	34	100.0	34	100.0

平成 25 年度(前期課程)

	1. 教育内容について		2. 教育方法について		3. 教育成果について	
選択肢	度数	%	度数	%	度数	%
a	32	91.5	31	91.5	28	80.1
b	2	5.7	2	5.7	6	17.1
c	0	0	1	2.9	0	0.0
未回答	1	2.8	1	2.8	1	2.8
科目数合計	35	100.0	35	100.0	35	100.0

平成 25 年度(後期課程)

	1. 教育内容について		2. 教育方法について		3. 教育成果について	
選択肢	度数	%	度数	%	度数	%
a	4	100.0	4	100.0	2	50.0
b	0	0	0	0	2	50.0
c	0	0	0	0	0	0
科目数合計	4	100.0	4	100.0	4	100.0

第4節 看護研究・研修センターの活動

1 概要

(1)設置目的

全学の協力のもとに、看護生涯学習^{注)}に関して調査、研究及び教育を行うとともに地域との交流促進をはかり地域社会の発展に寄与することを目的とする。

注) 看護生涯学習とは：地域の人々が健康的な生活が送れるようになることを目指し、住民自身および保健・医療・福祉の専門職が行うすべての学習をさす。

(2)所掌事務

- ① 地域における看護生涯学習活動の推進に関すること。
- ② 高等教育コンソーシアム宮崎に関すること。
- ③ 認定看護師教育課程に関すること。
- ④ その他センターに関する重要事項に関すること。

(3)沿革

時期	活動の総括
H9. 5月 ～ H15. 3月	・財団法人宮崎県看護学術振興財団の予算を活用しながら各教員がそれぞれに地域貢献活動を実施した。
H15. 4月 ～ H16. 3月	・センター長が配置され、主に広報学外協力に関すること、宮崎高等教育コンソーシアムに関わることを実施した。看護生涯学習に関することは財団法人宮崎県看護学術振興財団の予算を活用しながら各教員がそれぞれに地域貢献活動を実施した。
H17. 4月 ～ H21. 3月	・地域貢献活動を組織的に行うため、規程を整備し、センター主催の活動を開始した。財団法人宮崎県看護学術振興財団助成を受けた「親子で楽しく輪ッハッハ教室」等の事業や災害支援が、大学の行う地域貢献事業として位置づけられるようになった。学内の情報を発信するために広報誌や事業報告書が作成された。センターが各委員長で構成されていたため中期目標・中期計画の案作成を担当した。
H21. 4月 ～ H23. 3月	・宮崎県立看護大学中期目標・中期計画が動き始め、センターは、「急速な人口構造の高齢化や過疎地域という問題を抱えた本県において、看護職者及び地域のニーズに応じた取組をおこない、地域に積極的に貢献し、開かれた大学を目指す」という中期目標を見据え、多様な新規事業を開始し、地域貢献活動の拡大をはかった。
H23. 4月 ～ H24. 3月	・新学長の「地域貢献活動の一層の充実強化を！」という方針の下、センターの体制整備が図られ、附属図書館2階のセンター内に事務局を設置し、看護師と保健師の2名を配置、地域貢献に対する問い合わせや依頼に常時対応できるようになった。また、地域のニーズの高い課題への取組には、積極的に予算配分をするという環境が整い、地域貢献活動の充実が図られた。地域のニーズの高かった感染管理認定看護師教育課程を開始する準備を整えた。

(4)活動の実際

① 活動方針

宮崎県の看護教育、研究、研修の中核機関として、中期目標・中期計画の達成を目指し、関係機関との連携を図りながら、教職員と学生が一体となって県民の保健・医療・福祉の向上と看護の質の向上に寄与する活動を行う。

② 事業内容

- ・地域貢献等研究推進事業を活用した研究事業

・その他センター運営委員会が行う地域貢献事業

平成 24～25 年度 看護研究・研修センター事業

所掌事務	分 野	事 業 名	
		地域貢献等研究推進事業	センター運営委員会実施事業
1) 地域における看護生涯学習活動の推進に関すること	県民連携事業 ＜県民の保健医療福祉の向上を目的とし、自治体や民間の N P O 法人等と連携しながら研究成果を地域住民へ還元する事業＞	1) 公開講座 2) 母親の育児力形成支援事業—親子で楽しく「輪ッハッハ！」教室— 3) 宮崎における子育て支援事業 4) 思春期のヘルスケア開発事業	1) 老いも若きも“はつらつ赤江”つながり隊 2) 高齢者のための介護予防運動活動の支援
	地域看護職等連携事業 ＜地域の看護職専門職の専門性の向上を目指し、地域の医療機関や保健師等と連携や看護実践をおこない地域や臨床現場に研究成果を還元する事業＞	1) 看護職者のための看護力再開発講習会（技術演習コース） 2) 地域連携システム構築のための基盤づくり事業 3) 宮崎県内の医療機関に勤務する看護職者の看護実践能力向上のための実践・研究支援 4) 宮崎県内の急性期医療に関わる看護職者の実践力向上のための支援	1) 看護研究支援事業 2) 研修会講師等派遣事業 3) 助産師の仕事研究会
	官学連携事業 ＜県福祉保健部のシンクタンクとして県の行政の課題に大学の人材を活用して調査・研究等をおこなう事業＞	1) 保健師の力育成事業 2) 口蹄疫被害地域における地域健康ネットワークと危機管理体制の構築事業（平成 24 年まで） 3) 児童養護施設における生きる力「性＝生」教育開発支援事業（平成 25 年～） 4) 学校版月経ヘルスケアプログラム作成事業	
2) 学外協力に関すること	広報活動事業		1) 看護研究・研修センター年報発行事業
	学外協力事業		1) 災害支援協力事業
3) 高等教育コンソーシアム宮崎に関すること	高等教育コンソーシアム宮崎事業		1) 教育研究連携事業 2) 学生交流事業 3) 地域連携事業
4) その他にセンターに関する重要事項に関すること		1) 認定看護師教育課程（感染管理）開設準備事業	

(5)活動成果及び課題

センターの体制整備がはかられ、地域貢献等研究推進事業費が設けられたことにより、地域貢献活動が充実した。

① 地域における看護生涯学習活動の推進に関すること

ア 成果：県政課題や地域の課題の解決に、行政（自治体）・関係機関、看護実践現場などと連携しつつ取り組むとともに、保健・医療・福祉の分野に関連する社会的及び地域に密着したテーマに対する多様な研究活動が行われた。また、県民ニーズをアンケート等で把握し、公開講座の内容に反映する工夫も行いながら、県民ニーズに的確に対応した公開講座の充実をはかると共に、教員の専門性を活かした県民対象の公開講座も開催できた。更に、関係機関と連携した看護職者の現任教育への支援など看護職者の資質の向上を目指した学習の機会を提供することができた。

イ 課題：地域のニーズを把握する仕組みづくりを行うこと。学生参加型の地域貢献事業の拡大すること。研究成果の地域への還元を促進すること。看護職者間のネットワーク構築や関係機関との連携強化をはかること。

② 高等教育コンソーシアム宮崎に関すること。

ア 成果：県内の大学間連携として、コンソーシアム宮崎への委員の派遣、コーディネート科目への講師の派遣を行うと共に、単位互換の科目を2科目提供し、コンソーシアム宮崎との連携活動ができた。

イ 課題：コーディネート科目等に本学からの受講生がいないため、本学学生の参加を促していくこと。

③ その他センターに関する重要事項に関すること

ア 成果：日本看護協会より、平成25年10月21日付けで宮崎県立看護大学看護研究・研修センターが感染管理認定看護師教育課程の教育機関として認定された。

イ 課題：感染管理認定看護師教育課程を円滑に運営していくこと。

2 認定看護師教育課程

(1)経緯

医療関連感染の予防と管理について、熟練した看護の知識と技術を用いて看護実践ができる感染管理認定看護師を育成することは、安全な医療を提供するために重要なことである。また、医療機関に感染管理認定看護師を専従又は専任でおくことで感染防止対策加算ができる、となっており、診療報酬上も感染対策を推進するための役割が期待されている資格である。感染管理分野の認定看護師教育課程は、全国の10機関（平成24年4月現在）で開設されているが九州管内にはなく、最も近い場所で山口県であり、県内の看護職が受講しにくい環境となっている。

平成24年4月現在、県内の感染管理認定看護師は7人であり、県内の病院数が143施設であることや、安全な医療を提供することが施設において重要な課題であることを考えると、安全な医療の実現のために、感染管理認定看護師を県内で育成することへのニーズは高い。

以上のことから、宮崎県立看護大学看護研究・研修センターにおいて感染管理分野の認定看護師教育課程を開設することができれば、県内の医療機関の看護の質の向上が図

られるとともに、県民の保健・医療・福祉の向上につながると考え、平成26年度の開設目指して平成24年度から2年間かけて準備に取り組むこととなった。

(2) 認定看護師（感染管理）教育課程開設準備事業の概要

感染症に関する高度な専門知識を身につけ、感染予防、監視、管理ができる能力、及び感染管理の質の向上を目指した教育・指導ができる能力を育成し、施設内においてリーダーシップを発揮し、医療の安全と質の向上に力を発揮できる人材の育成をおこなうことを目的に地域貢献等研究推進事業費を活用し、認定看護師（感染管理）教育課程開設準備事業を行った。

- ① 専任教員予定者の専門性の向上を目指し、山梨県立大学大学院看護学研究科専門看護師教育課程（感染看護）へ派遣する。
- ② 教育課程を編成し、講師を確保する。
- ③ 実習施設及び実習指導者を確保する。
- ④ 開設に向けた関係機関への周知を行う。
- ⑤ 教育環境整備を行う。
- ⑥ 申請書を作成し、平成 25 年 8 月に日本看護協会に認定看護師課程【感染管理】教育機関としての認定を申請する。
- ⑦ 認定看護師課程開設のための広報及び受験者事前学習の場として感染管理スキルアップ研修会等を開催する。

(3) 活動の実際

認定看護師教育課程（感染管理）開設準備部会設置要綱を定め、教育課程編成班、実習施設確保班、教育環境整備班の3つの班を編成し、タイムスケジュールに沿って準備を進めた。

平成 24 年度には、3カ所の認定看護師教育機関への訪問、情報収集を行うと共に、各班での検討、7回の部会の開催、日本看護協会への相談1回、県との協議1回を行い準備を進めた。平成 25 年度には、16回の準備部会を開催し、教育課程の編成、実習施設の確保、教育環境の整備に関わる具体的な事項を検討していった。

また、認定看護師教育課程準備事業として、「感染管理スキルアップ研修」と「感染管理スキルアップ研修＜出前講座＞」を実施した。「感染管理スキルアップ研修会」は、宮崎県内の安全な医療の実現のために、感染管理に関するより専門的な知識及び技術を修得し、チームリーダーとして自施設の医療関連感染の予防と管理に貢献できる人材を育成することを目的とした。全日程受講者 43 名、公開講座のみ受講者 31 名の参加があった。「感染管理スキルアップ研修＜出前講座＞」は県内医療機関の医療関連感染対策の質の向上を図ること、及び医療関連感染対策に関わる研修等のニーズ調査を行い、感染管理対策教育活動に活かすことを目的とした。2保健所3医療施設との共催で3回実施し、延べ 250 名が受講した。

(4)成果

平成 26 年 8 月教育課程の開講を目指し、平成 25 年 8 月に教育機関認定審査申請書を提出した。その結果、日本看護協会より、平成 25 年 10 月 21 日付けで宮崎県立看護大学看護研究・研修センターが感染管理認定看護師教育課程の教育機関として認定された。

(5)課題

- ① 感染管理認定看護師教育課程の円滑な運営を行うこと
- ② 感染管理認定看護師フォローアップとネットワークづくりを行うこと